

4（支）署合同による研修会を実施！！（北海道育種場編）

令和8年1月21日（水）に、4（支）署（上川北部・十勝西部・東大雪・西紋別）合同で若手職員のOJTを兼ねて広く知見を広げてもらうことを目的に森林総合研究所林木育種センター北海道育種場において、研修会を行いました。最初に育種場の研究員より「優良種苗の確保について」と題し、造林の歴史や優良種苗の開発、種苗政策の変遷など講義を受けました。

優良種苗開発はここ数年で著しい成果を上げており、私たち国有林の現場でも多くの優良種苗が造林されています。それは、育種場をはじめ多くの研究者の努力の賜物であることを視察した職員は、感じているようでした。



真剣な眼差しで聴講する職員



研究開発中の苗木（針葉樹）

育種場を見学しての感想（職員より）

北海道育種場を見学し、林木育種が長い時間をかけて私たちの身近な森林づくりに役立っていることを実感しました。育種場では、成長が良く形や材質に優れた木だけでなく、花粉が少ないこと、虫害・気象害に強いといった特性をもつ優良品種の開発が進められています。将来にわたって森林を守るため、林木の遺伝資源を集めて保存したり、海外と協力して育種研究を行ったりしている点も印象に残りました。

国有林との関係についても理解が深まりました。山にある特に優れた木（精英樹）を選び、さし木やつぎ木で増やして国有林内に採種園を造成し、そこから得られた種子が苗木づくりに活用されています。当署には朝日の乙部採種園と和寒の塩狩採種園があり、さらに次の世代を評価するための次代検定林がつけられていることを学びました。

林木の育種は農作物と比べて非常に長い時間が必要ですが、ゲノム編集やDNAマーカーといった新しい技術により、優良な品種をより早く見極められるようになってきていることを知り、育種技術の進歩を痛感しました。

※ゲノム編集とは、特定の遺伝子を狙って働きかけ、その性質を変える技術のこと。育種場では、スギの花粉をつくる遺伝子に関する研究等が進められている。
※DNAマーカーとは、木が持っているDNAの違いを目印として利用し、「成長が良い」「病害に強い」といった特徴を苗木の状態で判断できること。



この機会を通じて、国有林と育種場の更なる交流が進みます！

北海道森林管理局 Instagram も開設！



林業機械の運転席から景色（動画）を見てほしい！

<上川北部森林管理署>

北海道上川郡下川町緑町21番地4

☎ 01655-4-2551

<北海道森林管理局 HP>

北の森漫画も公開中！

